

## 兼任教員情報公開用（最近5年間の主な業績等）

2025 年

氏 名	織 朱實	担当科目	環境法Ⅰ、発展ゼミⅠ
学 位			
2003年3月	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 博士（法学）		
主 な 学 歴			
年 月	事 項		
1982年4月	早稲田大学法学部入学		
1986年3月	早稲田大学法学部卒業		
1998年4月	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程 入学		
2003年3月	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 博士（法学）取得		
主 な 職 歴・経 歴			
年 月	事 項		
2003年4月	（研究者教員） 関東学院大学法学部助教授 上智大学大学院 地球環境研究科 教授（現在に至る）		
2015年8月			
1990年1月	（実務家教員） 東京海上火災保険株式会社 入社 東京海上火災保険株式会社 主任研究員		
1996年6月			
2001年2月	東京海上火災保険株式会社 退社		
2005年4月	国立大学法人一橋大学大学院法務研究科 非常勤講師（現在に至る）		
2006年5月	三井化学株式会社 社外取締役（2010年6月終了）		
2006年6月	上海大学招聘教授（現在に至る）		
2011年7月	独立行政法人製品技術基盤機構 監事（2022年6月）		
最近5年間の主な業績等			
年 月	事 項		
2019年	“Invasive Alien Species Control and Public Participation:Case Study of the Ogasawara Islands,” Akemi Ori, Global Environmental ResearchVol.23 No.1&2		
2019年	『ごみから考える SDGs 未来を変えるために、何ができる？』2019年12月織朱實監修、PHP 出版		
2019年12月	「島嶼における外来種対策とリスクコミュニケーション：小笠原諸島におけるネズミ対策とリスクコミュニケーションの事例研究」地球環境（15），115-131，上智大学地球環境学研究所		
2020年3月-12月	連載「わが家のごみ箱はSDGsとつながっている！（第1回-12回）織 朱實、国民生活. ウェブ版：消費者問題をよむ・しる・かんがえる（100）		
2021年12月	「第20回行政法研究フォーラム——行政法学から考える原発問題の現在」（下山憲治・荻野 徹・田中良弘・織 朱實・大久保規子・山下竜一／著、法律時報編集部／編）法律時報94巻1号（2022年）		
2022年1月	『原子力政策と住民参加—日本の経験と東アジアからの示唆』		

2022年11月	田中良弘編著、第2章高レベル放射性廃棄物処分とリスクコミュニケーション pp25-52、第一法規 『行政判例百選』 斎藤, 誠, 山本, 隆司 (担当:分担執筆, 範囲:XV_国家補償 (3)費用負担者の責任 国家賠償法3条2項に基づく求償)有斐閣
2023年11月	化学物質過敏症一札幌高裁判令和3年9月17日労判1262号5頁 環境法研究最近の重要環境判例 (48)
2023年4月	「プラスチック資源循環促進法施行1年から見える課題」環境と公害 52(4) 56-59
2023年4月	「プラスチックごみをめぐる諸問題」政策法務Facilitator 78 10-17
2024年1月	「ペットボトルリサイクルをめぐる検討:公正取引委員会ペットボトルリサイクル実態調査報告書を契機して」公正取引 (879) 37-43 2024年1月
(参考:外部リンク) プロフィールURL	
	<a href="http://www.genv.sophia.ac.jp/research/ori_office.html">http://www.genv.sophia.ac.jp/research/ori_office.html</a>